

# 平成15年度 学力向上フロンティア事業中間報告書

都道府県名	長崎県
-------	-----

・学校の概要 (平成15年4月現在)

波佐見町立東小学校									永尾分校				
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数	1年	2年	計	教員数
学級数	1	1	1	2	2	2	1	10		1	1	2	
児童数	33	25	38	47	44	51	1	239	15	9	13	22	3

・研究の概要

## 1. 研究主題

自分の思いを伸びやかに表現できる子どもの育成をめざして  
 国語科「話すこと・聞くこと」領域を中心に  
 伝え合う力を伸ばす個に応じた指導方法の研究

## 2. 研究内容と方法

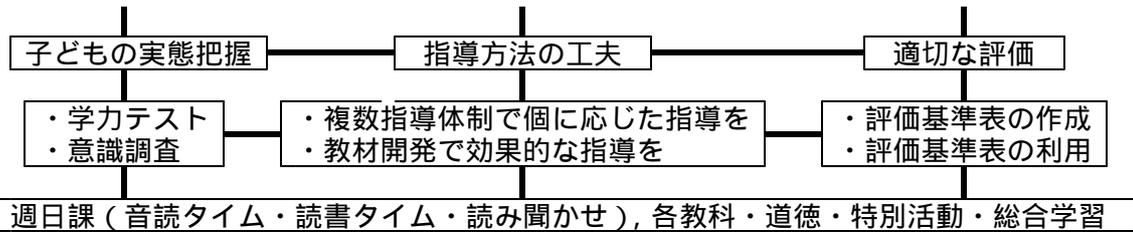
### (1) 実施学年・教科

・全学年・国語

本校児童の「表現力が乏しい」という実態を踏まえ、6年間を通してどのような積み上げで、力を伸ばすことができるのか探るため

### (2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ                  自分の思いを伸びやかに表現できる子どもの育成をめざして                  — 国語科を中心とした伝え合う力を伸ばす指導方法の研究 —</p> <p>仮説                  子ども一人一人に学習活動に対する思いや目的意識を持たせ、一人一人の良さや可能性を高める体験的な活動や多様な表現活動の場を設定したり適切な評価を行って指導方法を工夫すれば、子ども達の意識が高まり、自分の思いを伸びやかに表現できる子どもに育つであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>〔授業研究〕                  全体仮説を受け、低・中・高学年部会それぞれに部会テーマ・仮説・具体的手だてをたて、その実践を行う形で指導方法の研究を行ってきた。</p>															
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">低学年部会テーマ</th> <th style="width: 33%;">中学年部会テーマ</th> <th style="width: 33%;">高学年部会テーマ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自分の思いをよこんで表現できる子どもをめざして</td> <td>自分の考えをまとめ、わかりやすく表現できる子どもをめざして</td> <td>目的意識を持って生き生きと伝え合うことができる子どもをめざして</td> </tr> <tr> <td>部会仮説</td> <td>部会仮説</td> <td>部会仮説</td> </tr> <tr> <td>・単元の導入や展開において発表する場（スピーチ集会、作文発表会など）を意図的に設定し、計画的に指導していけば、話すこと・聞くこと・書くことに慣れ親しみ、興味関心や意欲が高まり、生き生きとした表現活動ができる子どもに育つであろう。</td> <td>・読む活動を基盤に書く活動 ・話す活動と段階を追って子ども達に指導を行っていけば、子ども達は読む活動で「理解や語彙力」をつけ、書く活動で自分の考えを「文章化」し、話す活動で題意を理解し自分の考えを「発表」できるのではないかと。</td> <td>・話し合い活動を支える基礎的な力として「読むこと・書くこと」の領域の充実に力を入れながら、授業の中にパネルディスカッション・ディベート ・小集団による話し合い活動を取り入れた対話に慣れさせていけば、子ども達のコミュニケーション能力を高めることができるであろう。</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;"><b>具体的手だて</b></td> </tr> </tbody> </table>	低学年部会テーマ	中学年部会テーマ	高学年部会テーマ	自分の思いをよこんで表現できる子どもをめざして	自分の考えをまとめ、わかりやすく表現できる子どもをめざして	目的意識を持って生き生きと伝え合うことができる子どもをめざして	部会仮説	部会仮説	部会仮説	・単元の導入や展開において発表する場（スピーチ集会、作文発表会など）を意図的に設定し、計画的に指導していけば、話すこと・聞くこと・書くことに慣れ親しみ、興味関心や意欲が高まり、生き生きとした表現活動ができる子どもに育つであろう。	・読む活動を基盤に書く活動 ・話す活動と段階を追って子ども達に指導を行っていけば、子ども達は読む活動で「理解や語彙力」をつけ、書く活動で自分の考えを「文章化」し、話す活動で題意を理解し自分の考えを「発表」できるのではないかと。	・話し合い活動を支える基礎的な力として「読むこと・書くこと」の領域の充実に力を入れながら、授業の中にパネルディスカッション・ディベート ・小集団による話し合い活動を取り入れた対話に慣れさせていけば、子ども達のコミュニケーション能力を高めることができるであろう。	<b>具体的手だて</b>		
低学年部会テーマ	中学年部会テーマ	高学年部会テーマ														
自分の思いをよこんで表現できる子どもをめざして	自分の考えをまとめ、わかりやすく表現できる子どもをめざして	目的意識を持って生き生きと伝え合うことができる子どもをめざして														
部会仮説	部会仮説	部会仮説														
・単元の導入や展開において発表する場（スピーチ集会、作文発表会など）を意図的に設定し、計画的に指導していけば、話すこと・聞くこと・書くことに慣れ親しみ、興味関心や意欲が高まり、生き生きとした表現活動ができる子どもに育つであろう。	・読む活動を基盤に書く活動 ・話す活動と段階を追って子ども達に指導を行っていけば、子ども達は読む活動で「理解や語彙力」をつけ、書く活動で自分の考えを「文章化」し、話す活動で題意を理解し自分の考えを「発表」できるのではないかと。	・話し合い活動を支える基礎的な力として「読むこと・書くこと」の領域の充実に力を入れながら、授業の中にパネルディスカッション・ディベート ・小集団による話し合い活動を取り入れた対話に慣れさせていけば、子ども達のコミュニケーション能力を高めることができるであろう。														
<b>具体的手だて</b>																



子どもの実態把握

- ・ 6月に1回目の学力テストと意識調査を行った。
- ・ 1月に2回目の学力テストを行った。

授業研究（指導方法の工夫）

研究授業

- ・ それぞれの部会で研究授業を2回実施し、そのうちの1回は、部の取り組みを自らの部で確かめるために行い、もう1回を全校授業として全職員参加の授業研究会を開き、広く意見を聞き互いに情報交換を行い、学校としての研究の足並みをそろえる場として実施した。
- ・ 授業は、部の授業として計画立案し実践することで共同研究の立場を明確にした。
- ・ 計6回の研究授業では、毎回教育事務所の指導を仰いだ。

指導体制の工夫

- ・ 1～3年・・・少人数加配を国語に配置（2学期から）
- ・ 4～6年・・・教頭・教務が、週1時間TTに入る。（2学期から）

- ・ 上記の通り、複数の教員で指導に当たることにより、より細やかな個に応じた指導を展開し、より確実な学習の定着を図るよう努力した。
- ・ 基本的にはチームティーチングの形を取りながら、学級2分割の少人数学習を行った。1年では興味関心別の少人数で読み物教材の指導を展開したり、2年生では活動別の少人数学習を仕組んだ。3年生では、登場人物の心情について話し合う時に少人数を活用した。

適切な評価

- ・ 適切な評価を行うために評価規準・基準表を作成した。
- ・ 日々の学習では、基準表に照らし合わせながらチェックリストに記録を残している。
- ・ 自己評価・相互評価も取り入れ、評価に厚みを持たせようとしている。

環境作り

- 週日課の工夫（朝の時間） 月曜日・・・音読タイム  
 水曜日・・・読書タイム  
 木曜日・・・読み聞かせ  
 （昼休み） 水曜日・・・読み聞かせ（保護者ボランティア）

基本話型表の作成

音読タイム用音読資料作成（低・中・高学年用）

行事作文の取組

学習評価基準表の作成

平成15年度

テーマ

自分の思いを伸びやかに表現できる子どもの育成をめざして  
 国語科「話すこと・聞くこと」領域を中心に  
 伝え合う力を伸ばす個に応じた指導方法の研究

仮説

◇国語科の授業において、次のような指導方法の工夫を行えば、自分の思いを伸びやかに表現できる子どもに育つであろう。

(1)TT・少人数指導等を取り入れた「個に応じた指導」の展開  
 複数の指導者を配置し、目的的に展開されるTT指導・少人数指導による授業の展開  
 評価基準表の活用して客観的に子ども達の力を評価し、「個」の力を更に伸ばす授業の展開

(2)週日課の工夫によるスキル学習の取組

言葉を豊かにするスキル学習の実践  
 聞く力をつけるスキル学習の実践  
 話す力をつけるスキル学習の実践

(3) ワイワイタイムを取り入れた単元構想と授業の展開

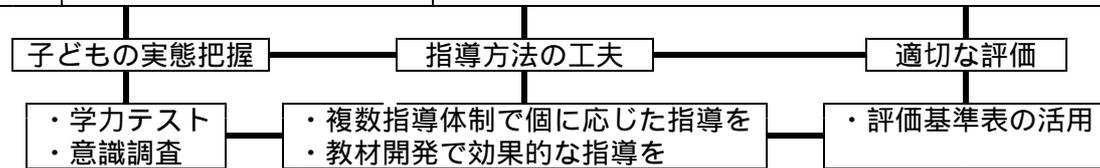
目的意識・相手意識を持って意欲的に取り組むことのできる授業展開の工夫  
 自分の考えをのびのびと伝え合うことができるワイワイタイムの取組

研究内容・方法

〔授業研究〕

全体仮説を受け、低・中・高学年・障害児教育部会それぞれに部会テーマ・具体的取り組みを設定し、その実践を行う形で指導方法の研究を行ってきた。

	テーマ	具体的取組
低学年部会	自分の思いをよここんで表現できる子どもをめざして	(1) 子どもにとって興味関心のある話題の提示 (2) TT・少人数指導を取り入れた「個に応じた」きめ細かな指導 (3) 「話すこと・聞くこと」領域における発展的・補足的な指導のあり方
中学年部会	話の中心をおさえ、筋道を立てて話すことができる子どもをめざして	(1) 目的意識を持って聞く児童を育てるための工夫 (2) 「話す・聞く」自己評価カードの効果的な活用 (3) スキルタイムによる「話す・聞く」力の確実な定着とワイワイタイムの導入 (4) TT・少人数指導を取り入れた「個に応じた指導の工夫」
高学年部会	目的意識を持って生き生きと伝え合うことができる子どもをめざして	(1) TT・少人数指導を取り入れた「個に応じた指導」の工夫 (2) スキルによる「話す・聞く」力の基礎基本の確実な定着と生活化 (3) 自己評価・相互評価の工夫 (4) 目的意識を持って意欲的に取り組むことのできる話題の設定と場の工夫
障害児教育部会	自分の思いを表現しようとする子どもをめざして	(1) 自分の思いを持たせるために <p style="text-align: center;">自分の思いを文章化させる</p> (2) 表現しようとする意欲を持たせるために <p style="text-align: center;">インタビューという形を設定することで高い動機付けをする。</p>



**スキルタイム**  
 週日課（音読タイム・読書タイム・読み聞かせ）、各教科・道徳・特別活動・総合学習

子どもの実態把握

- ・学力テスト・・・6月
- ・意識調査・・・7月

授業研究（指導方法の工夫）

研究授業

- ・低・中・高学年部会は、研究授業を2回実施し、そのうちの1回は、部の取り組みを自らの部で確かめるために行い、もう1回を全校授業として全職員参加の授業研究会を開き、広く意見を聞き互いに情報交換を行い、学校としての研究の足並みをそろえる場として実

- ・ 実施した。障害児教育部会は、全体会として1回実施した。
- ・ 授業は、部の授業として計画立案し実践することで共同研究の立場を明確にした。
- ・ 計4回の全体授業には、毎回教育事務所の指導を仰いだ。

#### 指導体制の工夫

- ・ 1～6年・・・少人数加配を国語に配置  
(2名の教諭が加配教諭として担任と協力して国語の指導にあたる。)

- ・ 上記の通り、複数の教員で指導に当たり、きめ細かな個に応じた指導を行い、より確実な学習の定着を図るよう努力した。
- ・ 「個に応じた指導」を行うために、以下のような学習形態の工夫を行った。

\* ティームティーチング

\* 少人数指導

習熟度別学習  
課題別学習  
習熟度・課題別学習  
少人数学習

#### 評価の工夫

- ・ 適切な評価を行うために評価基準表を活用した。
- ・ 評価の客観性と信頼性を高めるために日々の学習の足跡を残し、多様な評価資料から評価するようにした。
- ・ 指導を協力して行った指導者が評価も協力して行うようにした。
- ・ 児童自身による自己評価・相互評価も取り入れ、評価に厚みを持たせるようにした。

#### 環境作り

週日課の工夫(朝の時間) 月曜日・・・音読タイム  
水曜日・・・読書タイム  
木曜日・・・読み聞かせ  
(昼休み) 水曜日・・・読み聞かせ(保護者ボランティア)

#### 基本話型表の活用

音読タイム用音読資料活用(低・中・高学年用)  
行事作文の取組

#### 研究内容変更について

研究の充実を図るために、平成14年度の計画を大幅に変更して平成15年度の取り組みを行った。

研究副主題では、フロンティア研究校としての色合いがはっきり出るように文言を付加した。また、仮説をより具体的なものとし、学校全体としてまとまりのある研究になるように変更した。その変更により週1回、1単位時間のスキルタイムがスタートした。このスキルタイムは、基礎基本の定着を図るための貴重な時間となっており、研究の重要な位置を占めるものになりつつある。

平成16年度

#### テーマ

自分の思いを伸びやかに表現できる子どもの育成をめざして  
国語科「話すこと・聞くこと」領域を中心に  
伝え合う力を伸ばす個に応じた指導方法の研究

#### 仮説

◇国語科の授業において、次のような指導方法の工夫を行えば、自分の思いを伸びやかに表現できる子どもに育つであろう。

#### (1) TT・少人数指導等を取り入れた「個に応じた指導」の展開

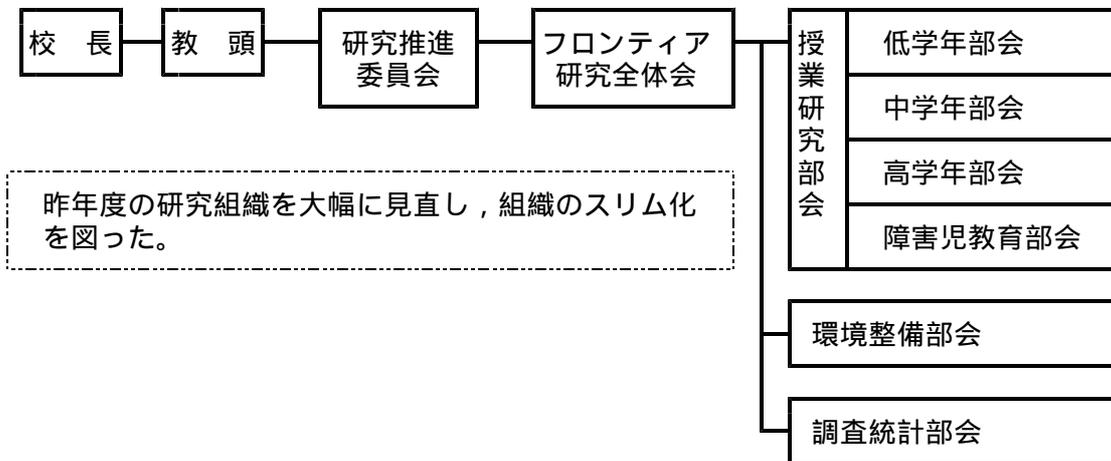
複数の指導者を配置し、目的的に展開されるTT指導・少人数指導による授業の展開  
評価基準表の活用して客観的に子ども達の力を評価し、「個」の力を更に伸ばす授業の展開

- (2) 週日課の工夫によるスキル学習の取組
  - 言葉を豊かにするスキル学習の実践
  - 聞く力をつけるスキル学習の実践
  - 話す力をつけるスキル学習の実践
- (3) ワイワイタイムを取り入れた単元構想と授業の展開
  - 目的意識・相手意識を持って意欲的に取り組むことのできる授業展開の工夫
  - 自分の考えをのびのびと伝え合うことができるワイワイタイムの取組

研究の内容と方法

- ・ 伝え合う力を伸ばす個に応じた指導方法の研究を，仮説に従いながら実践研究を行う。
- ・ 職員共働による授業研究会を開き，共同研究を行う。
- ・ 「話こと・聞くこと」領域での指導を生かすため，ワイワイタイムを他教科・他領域において積極的に取り入れるようにする。
- ・ スキルタイムの充実を図る。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- (1) TT・少人数指導を取り入れた「個に応じた指導」の実践の成果
  - ・ 少人数指導を取り入れることにより，指導が焦点化され個に応じやすくなった。
  - ・ 少人数指導では，話し手と聞き手の距離が近くなる。そのため以前より集中して「聞く」ことができるようになってきた。
  - ・ 「話す・聞く」の学び合いができるようになってきた。聞き手から質問や話し方についてのアドバイスが以前よりできるようになってきた。話し方が子どもたちに意識されてきていると捉えている。
  - ・ 少人数で作ったせまい空間は，子どもたちに安心感を与え，発言の苦手な児童も徐々に発言するようになってきている。
  - ・ 習熟度別学習のコース選択は，各コースの学習目標を明確にすることで，子どもたち自身に選択させることができるようになってきた。自己評価や相互評価の経験を積ませたこともコース選択の判断力を育てたと思われる。
- (2) 週日課の工夫によるスキル学習の取り組みの成果
  - ・ 子どもたちが楽しく取り組めるスキル学習の実践により，話したり聞いたりする学習に対しての苦手意識を軽減できた。
  - ・ スキルタイムで身につけた話す技能を他の学習で生かして発言する様子が見られるようになってきた。
  - ・ 1モジュール15分の基本単位時間を学習内容に合わせてつなぐことによって，より効果的な指導ができた。
- (3) ワイワイタイムを取り入れた単元構想と授業の実践の成果

- ・話し合いの活動を意識して多く取り入れることにより、より多くの児童に発言の機会を与えることができた。
- ・話し合いに対する意欲が高まってきて、友達との話し合いに進んで取り組む児童が増えている。

#### (4) 学力テスト考察(学年別)

学力テストの観点項目が昨年度のものとは違うため比較ができないので、今年度のもので考察を加えることにした

2年	評価A	評価B	評価C
関心意欲態度	68	21	11
話す・聞く	47	45	9
書く	45	18	37
読む	32	39	29
言語	92	5	3

「関心・意欲・態度」は、「A」「B」合わせると9割近くを占めており、国語科に対する関心は高いように思われる。「話す・聞く」についても同じように9割を超え、研究の成果が出ている思えるが、「A」だけを見ると5割弱であり、継続的な指導が必要である。

3年	評価A	評価B	評価C
関心意欲態度	29	61	11
話す・聞く	71	26	3
書く	39	24	37
読む	42	34	24
言語	58	21	21

「関心・意欲・態度」は、「A」「B」合わせると9割を占めており、国語科に対する関心は高いように思われる。「話す・聞く」についても同じように10割に迫る結果が出ている。しかし「書く」「読む」は、落ち込みが見られ、関連した指導を進める必要がある。

4年	評価A	評価B	評価C
関心意欲態度	55	43	2
話す・聞く	64	23	13
書く	49	23	28
読む	38	38	23
言語	40	51	9

「関心・意欲・態度」は、合わせると9割以上の児童が「A」「B」であり、全体的に国語科を好意的に受け止めていることが窺える。「話す・聞く」も9割近くの値を示している。しかし、「書く」「読む」「言語」のA評価児童は少なく、落ち込みが感じられる。スキルタイムを利用して向上を図りたい。

5年	評価A	評価B	評価C
関心意欲態度	63	30	7
話す・聞く	74	14	12
書く	74	5	21
読む	53	28	19
言語	72	21	7

各領域とも「A」「B」合わせると約8割に達している。特に「言語」は9割を超え、スキル学習を通して基礎基本の定着を図った効果が出ていると考えられる。「読む」「書く」領域を向上させると、全体的な向上につながると思われる。

6年	評価A	評価B	評価C
関心意欲態度	73	24	4
話す・聞く	59	39	2
書く	57	33	10
読む	45	35	20
言語	25	49	25

「関心・意欲・態度」は、「A」「B」合わせると高い数値を示しており国語科に対する意欲的な学習態度が窺える。これに対し「読む」「言語」は、低い傾向にあり、スキル学習などで重点的に指導をしていく必要がある。「話す・聞く」は、高い数値になっており、少人数指導等の成果が出ていると思われる。

## 2. 今後の課題

他教科・他領域との関連を図った指導のあり方

「話すこと・聞くこと」領域で育ててきた力を他教科・他領域で生かすことで、さらにその力を伸ばす取り組みを行う必要がある。また、その取り組みの研究が、他教科・他領域の学力を向上させることにつながることを明らかにしたい。

「個に応じる指導」の手だての工夫

子どもの反応を予想し、支援の手だてを用意しているが、まだまだ内容や配慮に足りない部分がある。児童理解を深めながら個に応じた指導の手だて、教材開発を行っていきたい。

スキルタイムの充実

話す力・聞く力に関わる技能の向上を具体的に図る時間として、より効果的な指導がなされるよう年間計画の見直し作業をはじめ、指導展開例の充実を図る取り組みを行っていきたい。

学力等把握のための学校としての取組

<p>学力テストの実施（6月）全校児童</p> <p>子ども意識調査の実施（7月）全校児童</p>
---

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

<p>研究発表会開催</p> <p>日 時：平成15年11月5日（水） 場 所：波佐見町立東小学校 テーマ：自分の思いを伸びやかに表現できる子どもの育成をめざして —— 国語科「話すこと・聞くこと」領域を中心に 伝え合う力を伸ばす個に応じた指導方法の研究 ——</p> <p>対 象： 全ての教職員 研究紀要・公開授業指導案集作成</p>
<p>研究発表会開催予定</p> <p>日 時：平成16年11月19日（金） 場 所：波佐見町立東小学校 テーマ：自分の思いを伸びやかに表現できる子どもの育成をめざして —— 国語科「話すこと・聞くこと」領域を中心に 伝え合う力を伸ばす個に応じた指導方法の研究 ——</p> <p>対 象： 全ての教職員 研究紀要・スキルタイム資料集・公開授業指導案集作成予定</p>
<p>研究成果普及実績</p> <p>教育課程研究協議会にて研究の概要説明及び協議，資料配付 大牟田市教務主任会視察団来校：研究の概要説明，研究紀要配布 高松市立木太南小学校より来校：研究の概要説明，研究紀要配布 10年経験者研修・学習指導権研修にて研究の概要説明 10年経験者研修・特定課題研究発表会にて研究の概要説明 ホームページ作成（<a href="http://www.town.hasaminagasaki.jp/higashi">http://www.town.hasaminagasaki.jp/higashi</a>） 研究紀要の配布：近隣校，希望校</p>

次の項目ごとに，該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校	
【学校規模】	6学級以下 13～18学級 25学級以上	7～12学級 19～24学級	
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	TTによる指導 その他	
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作 理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有	無	